



## 学びのホームグラウンドじんけん楽習塾



# OYA OYA 通信

## ひと 人権を「他人ごと」から「自分ごと」へ

7月26日「わたしたちが地域と地球を結ぶ～  
じんけん楽習塾 20年目の行動計画をつくろう～」  
森実さん & 「ISSYO」代表の白根大輔さんです。

### 7月12日5回目の報告

7月12日の5回目のじんけん楽習塾は、2016年度八尾市人権教育・啓発プラン推進市民フォーラムのみなさんによる「みんなで考えよういじめの問題」がテーマでした。

このフォーラムは公募であつまった市民のみなさんが人権学習プログラムを作成するというものです。2016年度は「いじめ」をテーマに3本のプログラムができました。そのうちの2本を紹介してもらいました。



1本目は『新たな「いじめ」の形態を知る』。金(キム)さん、松田さん、田中さん、堀さんがファシリテーターをつとめてくれました。最初は「最近うれしか

ったことでアイスブレイキング。その後いじめの事象がおとなの社会では犯罪にあたること、そして、LINEのやり取りから起きるいじめの事例について考えました。携帯電話やインターネットの普及はものすごいスピードで、そこでおきるいじめや犯罪、事件にまきこまれる子どもたちの問題は考えなくてはいけない大きなテーマと思いました。



次のグループは『観衆・傍観者は作らない』がテーマで、居内さん、伊賀さん、富田さんが担当してくれました。ドラえもんの登場人物をイメージしたあるいじめのシーンを読み上げます。その後各グループで観衆、傍観者と思われるS夫くん、Dくんの気持ちを考えます。そして学校、家庭でしてほしいこと、地域としてできることを考えました。観衆、傍観者が実は実行犯をあやつっているかもしれないという意見もありました。見て見ぬふりをするたくさんの人たちがいじめをエスカレートさせる力かもしれないと思いました。これは社会問題にもいえることです。無関心であることのこわさを感じました。

### みなさんの感想

#### 新たな「いじめ」の形態を知る

●ラインのやり取りで最初はどこに問題があるのかわかりませんでした。グループワークすることで、自分自身の盲点があることに気づくことができました。また、娘とのやりとりを思いおこすことで問題に気づくことができました。よい機会でした。

●子どもたちの世界が教室、学校、地域からさらに広がってインターネット、携帯電話へと居場所をうつして行く中で、いじめの場も拡大している。4人の写真投稿に他の3人の許可が必要であったというのは確かにそうではあるけれど、その落ち度からいじめにつながっていく人の心がいちばん問題であると思う。

●「無視する」「からかう」などの行為がおとなの場合は犯罪になると置き換えて考えることで、いじめの深刻さを痛感することができました。Mえむさんが写真を投稿したことがきっかけで翌日からいじめがはじまったストーリーになっていますが、そのような原因となるきっかけがなくても当然いじめがはじまるケースもあるので最後のスライドはなくてもよいのではないかと思います。

●濃密に直接友人とかかわる思春期にスマホという媒体が入ることで、子どもたちにとって生きづらい時代になっているのではと感じました。おとなだと気にせずやりすごせることも子どもではそうもいかず、正しい方法と対処の仕方を大人が学び、伝えられることはとても大切だと思いました。

●大人が知らない部分でいじめが進行している。(水面下のいじめ)大人が気づいた時には、フォローがやケアができないくらい事が大きくなっていると思う。その中心になっているのが情報モラル・スマホの使い方である。中学生や高校生が起こすのではなく大人も部落や外国人といったいじめ・差別発言をしている。

●SNSが普及しすぎていじめに発展していると思うと悲しいです。おとながそれについていってないので対応しきれていない。家庭と連携をもっと学校はしていかないといけない。

●いじめはおとなの世界では犯罪だという切り口がすごいよかったです。どうしていじめはだめなのか子どもに説明するときに、使える説得力のある理由



だと思いました。いじめにはいろいろな形態があり、どんないじめが犯罪なのかについて知ることができました。事例のもっとも根本的なきっかけはM えむさんが皆の了承なしで写真をLINE上にアップしたことにあるので、子どもに携帯の正しい使い方を教えないといけないと思いました。まだ、携帯やインターネットの使い方がわからないと思わぬトラブルにまきこまれるということも大人が知らないといけないなと思いました。

●保護者や地域で何とか考えなければといろいろ工夫しているのが伝わってきました。ラインをしていない方への丁寧な説明がよかった。

●具体的なやり取りをよく見ることで思いもかけない事態に簡単に陥ってしまう怖さを実感できました。このやりとりが瞬時に行われることで、じっくりと物事を考える時間がないことが問題だと思う。大人も真剣に子どもと話し合う必要がある。

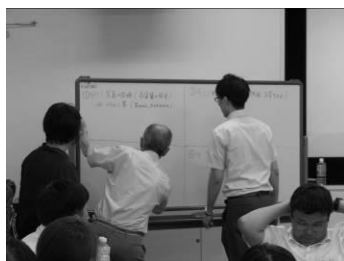
●中学生の場合に、楽しかったことだけを共有したい気持ちで悪気がなく、LINEを実用することがあるので仕方ないかと感じました。

●今の子どもたちに起こっているであろう具体的な事例から、いじめは暴力、犯罪にあたる行為であることをわかりやすく伝えていた。LINEの画面がもう少し大きくどこを言ってるのか指示してもらうとよりわかりやすい。地域の中でも保護者を中心に伝えてほしい内容だと思った。

●LINEの説明がすごくわかりやすかったので、知らない方もわかったのではないかと思います。小・中・高別のグラフのデータはもう少し長い時間スライドショーでみたかったです。

●LINEでできることメール、グループライン、アルバム等の説明がわかりやすく上手に説明するなと感じました。ただ、全く使ったことがない人にとっては言葉になじみがないので整理が難しいかもしれません。

●中学生の日常使っているLINEの具体的なやり方



をよく見ることで、思いもかけない事態に陥ってしまう怖さを実感できました。このやりとりが瞬時に行われることで、じっくり物事を考える時間がないことが問題だと思う。大人も真剣に子どもと話し合う必要がある。

## 観衆・傍観者はつくらない

●まず大人が自分の周囲を振り返り問題意識をもって考えてつながっていかないといけないことが分かりました。

●観衆、傍観者に視点をあわせたところが地域のおとなに考えてもらいやすかったと思う。身近に子どもがいないという人にも自分事として考えてもらえる。

●地域も連携していくことを強調されている部分はとてもよい。地域で何ができると考えることは素晴らしいです。地域でできることがいくらかもあるという体験をもとに話されることは貴重である→地域でいじめをなくすために何とかしやないかんという思いが伝わってきました。

●観衆も傍観者もいじめる側であることをきちんと子どもに理解をしてもらっていじめに遭遇したときに、勇気を出してとめたり、周りの大人(先生や親)に言うようにする必要があると思いました。

●従来に比べて観衆、傍観者は増えてると思う。ライングループの中での発言で既読はするが発言はしないとなるとそれも傍観者に積極的になっていると言える。



●観衆・傍観者はつくらない→改めて大切だと感じました。子どもだけの問題ではなく、子どものお手本になれよう、わたし自身がいじめの無い社会をつくるよう努力しなければと思います。

●こどもの性格や態度は親が関係する。親がえらそうだったり暴力的だと子どもにもよくない。学校・家庭・地域の連携を大切にする。

●「観衆」や「傍観者」がいじめを強化したり支持する存在になるという事を理解しました。「学校」「家庭」「地域」それぞれでできることを意識的に考えながら行動していきます。

●地域の人々の視点は家庭・学校とはちがう場所から一番近い第三者の目として、こどもを見守ることができるようになりたいです。

●地域、学校、家庭との連携を密にすることが少しでもいじめを減らすことにつながるのではないかと感じました。

(この報告の文責は李ぼんにあります。)

